

第9回群馬地域リハビリテーション研究会のお知らせ

第9回群馬地域リハビリテーション研究会を下記の予定で開催します。詳細は群馬県地域リハビリテーション支援センターホームページか、関連団体事務局宛のチラシでご確認下さい。事前申し込み受付は平成22年12月中旬から開始する予定です。県民駐車場利用の確認のため事前申し込みをしてください。多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

【日時】平成23年1月22日(土) 13:30～17:30(受付13:00～)

【場所】群馬会館 ホール

【報告】13:40～14:00 群馬県の地域リハ関連情報

【講演Ⅰ】14:00～15:30 「脳卒中のリハビリテーションとリハスタッフ間の連携」

講師:総合病院 国保旭中央病院 リハビリテーション科部長 医師 藤本幹雄 先生

脳卒中の急性期、回復期、維持期のリハビリテーションにおける歴史的な流れや最近の考え方の変化、合理的なリハビリテーションの戦略等について解説していただきます。また、地域で支えていくためのリハビリテーションスタッフに対する卒後研修システムをいかに構築すべきか、その展望などについてご講演していただく予定です。

【講演Ⅱ】15:45～17:15 「わらしから二度わらしへ(仮題)」

講師:目白大学 保健医療学部作業療法学科 教授 作業療法士 鷲田孝保 先生

子どもが発達していく過程を、高齢者は逆にたどっていきます。長年にわたって発達障害のリハビリテーションに携ってこられたご経験から、遊びだけでなく、運動・情動・社会性などの広い視点から高齢者のリハビリテーションに対してご提言いただく予定です。

「全国地域リハビリテーション合同研修会」参加報告

群馬県地域リハビリテーション支援センター
事務局長 浅川康吉

平成22年6月26日(土)・27日(日)の2日間にわたり札幌市の北翔大学北方圏学術センター「ポルト」にて札幌西円山病院の横串先生を大会長として「平成22年全国地域リハビリテーション研修会」が開催されました。

この研修会は全国地域リハビリテーション研究会の研修大会と全国地域リハビリテーション支援事業連絡協議会の第4回全国研修会との合同研修会として開催されました。大会1日目は講演Ⅰ「日本の地

域リハと研究会の歴史」と題して全国地域リハビリテーション支援事業連絡協議会副会長の松坂先生からスタートしました。続いてパネルディスカッションⅠ「在宅ケア連絡会の活動から地域リハビリ連携を考える」、パネルディスカッションⅡ「まちづくりの地域リハビリテーションの取り組み」が行われました。北海道内を中心にパネラーの方々からさまざまな実践例が報告され、フロアとの活発な質疑応答、意見交換が行われました。その後、コーヒーブレイクセミ

ナー「地域・医療連携による在宅呼吸リハビリテーション」を挟み、最後に全国地域リハビリテーション研究会の総会と全国地域リハビリテーション支援事業連絡協議会の総会が行われました。

この全国地域リハビリテーション支援事業連絡協議会はかつての都道府県地域リハビリテーション支援センター長会議が発展的解消となるにともない誕生した協議会です。予算、決算などの通常の議案は滞りなく承認されました。興味深かったのは、調査部からの報告です。「地域リハビリテーション支援体制整備推進事業」については回答を得た39都道府県の総計は都道府県レベルの支援センター設置26施設、広域支援センター設置229施設とのことでした。また、「介護予防市町村支援事業」については回答を得た38都道府県のうち「地域リハビリテーション支援体制整備推進事業」を活用しているのは5件(13%)で、「特別な支援体制なし」が16件(41%)を占めたことなどが報告されました。総会ではこの他に役員改選が行われ米満理事長の続投などが決まりました。

詳しくは協議会のホームページをご覧ください(<http://rehasien.com/index.html>)。

大会2日目はパネルディスカッションⅢ「地域の資源を活かした介護予防を考えるー寒冷、豪雪地域での介護予防の展開ー」とパネルディスカッションⅣ「リハの地域力を高めるためにー支援活動の実

際ー」が行われました。パネルディスカッションⅢでは私もパネルディスカッションⅢのパネラーとして参加させていただき、「鬼石モデル」の報告を行いました。それぞれに「まとめと提言(ミニ講演)」の時間が組み込まれており、Ⅲでは太田先生(茨城県立健康プラザ)が、Ⅳでは澤村先生(兵庫県立総合リハビリテーションセンター)が議論のまとめを行いました。締めくくりは全国地域リハビリテーション支援事業連絡協議会理事長の米満先生による講演Ⅱ「地域リハ支援事業の今後の展開」でした。残念ながらパネルディスカッションの延長にともない講演開始時間が遅れたため、空港に向かう時間になってしまいこの講演は聞くことができませんでした。

当日は北海道にしては暑い日とのことでしたが、ベストシーズンといわれる6月だけあって十分に北海道の空気を味わうことができました。1日目の夜にはサッポロビール園で懇親会が行われました。参加者は50人以上いたと思います。日頃スーツの先生方がみなネクタイをはずし、ジギスカン用エプロンをつけただけで会場は妙に盛り上がりはじめ、ジョッキ片手に乾杯で一気にテンションアップ!でした。大いに学び、大いに語り、大いに楽しんだ研修会出張でした。

(研修会資料は事務局で保管しています。ご覧になりたい方はご連絡ください。)

伊勢崎地域リハビリテーション 広域支援センター研修会 (主幹：角田病院)

日 時：平成22年10月23日(土)

午後2時～午後4時

場 所：玉村町文化センター 1階 視聴覚室
(佐波郡玉村町大字福島325番地)

テーマ：「呼吸器疾患のリハビリテーション」

講 師：高崎健康福祉大学 浅香 満 先生

対 象：リハビリテーションに関心のある方

参加費：無料

お問合せ：0270-65-7171

(角田病院 富田・大澤まで)

介護予防フェスタ 2010

こころもからだも元気イキイキ！ ～介護予防でみらいは明るく！！～

日 時：平成22年11月7日(日)

午前10時～午後3時

場 所：緋の郷(伊勢崎市昭和町1712-2)

イベント内容：

介護予防体験、機能測定・健康チェック、

相談コーナー、スタンプラリー、その他

主 催：伊勢崎市・伊勢崎地域

リハビリテーション広域支援センター

お問合せ：0270-25-5316

(伊勢崎地域

リハビリテーション広域支援センター)

介護予防サポーター5市合同情報交換会に出席して

去る8月31日表記のとおり、高崎市・渋川市・伊勢崎市・みどり市・前橋市の5市で情報交換会が開催されました。各市の介護予防サポーターが、総勢90名程度参加しました。

まず、群馬県地域リハビリテーション支援センター事務局長 浅川康吉先生より「サポーターの原点や各市の取り組みについて」のご講演をいただきました。群馬県地域リハビリテーション支援センターでは、平成17年度よりはじめた介護予防サポーターの目的について、①介護予防の必要性や方法を理解し、知識を身に付ける、②事業のサポート、リーダーとしての自主活動が出来ることとしています。地域ケア構築を目指し、まずは自分の健康・家族の健康、そして隣人へと健康の輪を広げていく…そんな人たちが、介護予防サポーターであると説明していただきました。今年度、群馬県での介護予防サポーター認定者が1万人を超えたという報告がありました。また、介護予防サポーター活躍の事例として吉岡市・沼田市の紹介がありました。いずれの事例にも目を見張るばかりでした。

その後、5市から介護予防サポーター代表者・行政担当職員から各市で実施している介護予防サポーターの活動の様子を聴かせていただきました。県内で多くのサポーターが熱心に活躍されていることに驚きました。各市共通して実施されていたことは、サポーターのスキルアップ研修や介護予防イベントでした。こういった研修やイベントに参加することにより、介護予防サポーターとしてまた頑張ろうと意欲的になれます。その他、各市の活動で、さまざまな工夫がみられました。傾聴を取り入れた上級研修、地域活動をするための留意点・工夫等の勉強、介護予防サポーターだよりの発行、介護予防ボランティアの会および推進協議会の立ち上げなど…とても参考になりました。

前橋市介護予防サポーター 佐藤 ヒナ
サポーター活動の問題点としては、まだ介護予防サポーターの知名度が低いため、地域での活動の場が広がらない現状があげられました。今後、地域への周知として、自治会長・区長・民生委員・地域包括支援センター等へ介護予防サポーター名簿を配布し、地域組織との横の繋がり作りを行ない、地域の中での活動を広げていきたいといった意見もでした。また、地域活動を効果的に行なうために、渋川市の介護予防サポーターがお話された「楽しくなければ集まらない」「面白くなければ続かない」「為にならなければ広がらない」という意識を持って工夫していきたいと思います。

以上 事例や各市の情報を聞かせていただき、介護予防サポーターの活動に対する行政のバックアップの必要性を感じるとともに、今後の活動の参考にさせていただきたいと思います。

私たちが更に研鑽を重ねつつ、どのような活動の中にも高齢者支援に必要な対応と情報提供が出来るよう努力するとともに、地域に浸透できることを願っております。

サポーターとしてのスキルを身につけ、体力づくりにも心がけながら、地域作りの担い手となるべく精進していきたいと思います。



平成22年8月31日(火)前橋市総合福祉会館にて、5市における介護予防サポーターの育成・活動状況の合同情報交換会が初めて開催され、90人の方が参加されました。

今回初めて開催となった経緯として発起側の前橋市から、挨拶の中で、呼びかけに賛同当初4市(前橋市・高崎市・伊勢崎市・渋川市)でしたが、今年度、新たに介護予防サポーター育成となった、みどり市が加わり、5市による情報交換会となり、各市それぞれ、自己紹介からとても和やかな雰囲気が進められていました。

まず、「群馬県における介護予防サポーターの取組について」群馬県地域リハビリテーション支援センター事務局長 浅川康吉 先生から報告がありました。地域ケア構築への挑戦として、高齢者自身が介護予防の担い手に期待して推奨している群馬県介護予防サポーターの養成は、介護予防元年となった、平成18年度から平成21年度の4年間、年々増加傾向にあり、初級・中級・上級の認定者数は既に1万人を超え、合計 10,030 人と群馬県は全国でも有数レベルにあると大変喜ばしい話に、参加者から歓声があがりました。平成21年度における群馬県介護予防サポーター育成数も市町村合併に伴う人口差はあるものの、サポーター自らが初級から中級へ、そして上級を目指した向上心の表れと上位10市町村の集計結果からも解り得ることができました。

続いて、「各自治体による介護予防サポーター活動報告」では、各市の実施状況と課題について発表がありました。

「高崎市」は、サポーター養成登録者は 700 人を超え増加中。フォローアップ研修や情報交換会も年間計画的に開催され、サポーター同士の横の繋がりを作ることで情報を共有しあえるメリットに加え、平成21年度からは、『介護予防サポーターたより』を発行。連絡事項や活動報告、研修・イベントの告知に活用されていて、サポーター登録者全員に配布するにとどまらず、民生委員、地域包括支援センターや在宅介護支援センター等、各地域の関係機関に広く配布しているという独自の広報周知方法に、関心が寄せられていました。

「伊勢崎市」は、サポーター登録者総数は 545 人

講師 社会福祉士 介護福祉士 桑畑裕子 を超え、平成20年に組織化。講習終了後『介護予防推進協議会』としてスキルアップや活動の場を広げていることと、中級講座のカリキュラムに生活機能を維持するための体操(ADL体操)を取り入れ、その普及に努めた『ADL介護予防ボランティアの会』と、2つの自主組織が地域の介護予防の推進に中心的存在となっている報告でした。また、サポーター自身が民生委員等地域の役員を兼ねている方が多く地域の高齢者に携わる人が重なっている現状もあり、サポーター活動に充分時間を費やすことのできない傾向で自治活動と平行して自己研鑽の必要性もふまえて、自主活動の土台づくり等が今後の課題との報告でした。

「渋川市」は、平成19年からのサポーター登録者総数は 195 人。市主催としての開催であり現在サポーター独自の地域活動としては準備中、『ぐんぐん教室』として実働人員は 35 人程度で活動。サポーターならではの視点の報告に、大変ユーモアにあふれ、『鬼石方式』にテンポや音楽で工夫し演出していること、参加者意欲を刺激する目的で、3回以上参加者に『温泉入浴券』を提供するなど独自の企画も好評との報告に、会場からは拍手もあがりました。今後はサポーター自身の活躍の場を広げ地元地域で効果的に実施する介護予防として『楽しくなければ集まらない・面白くなければ続かない・為にならなければ広がらない』をモットーに取り組んでいきたいと発表者の八高久夫上級者の笑顔が印象的なお話でした。

「みどり市」は、サポーター育成を新規にスタートして数ヶ月の状況で、隣接する桐生市との交流事業として広報掲載し周知啓発に工夫。また継続目的で毎回参加者にシールを貼って頂くことで眼に見える意欲につながっているのではとの報告でした。

「前橋市」は、上級登録者 300 人と県内で最も多く、市内11圏域の地区すべてに上級者がいることから、サポーター活動も市内全域を対象とした活動に加え、居住地域を対象とした活動への広がりが進んでいる状況とのこと。また、市独自に企画制作の『ピンシャン！元気体操』を用いて定例で各種教室の開催があり、親しみやすいリーフレットも活用。市施設の7会場と、サポーターが自主グループを立ち

上げた形の 94 会場もがあることは、前橋市の介護予防キャッチフレーズ『動いて・食べて・磨いて元気！』の実践そのものだという感じました。

各市とも介護予防に対する熱意にあふれている報告と活発な意見交換がなされました。皆さんが、『心が動けば体も動く』介護予防サポーター自身が元気に地域で生活している本来の元気高齢者が最大の人材であるという育成理念の大切さを実感した一日でした。

介護予防一般公開セミナー 「認知症を理解しよう」

日時：平成 22 年 11 月 13 日(土)

午後 1 時 30 分～3 時 30 分

会場：安中市松井田文化会館 大ホール

内容：

- ① 寸劇「認知症を理解するための寸劇」
出演：群馬県認知症ぼけ一座
- ② 講演「認知症を理解しよう」
講師：井上謙一先生
(NPO 法人じゃんけんぼん 理事長)

対象：どなたでも参加可能です

※参加希望者は 安中市地域包括支援センター

電話 027-382-1111(内線 1188 1189)まで

住所 氏名をご連絡下さい

ぐんま認知症アカデミー

第 5 回秋の研究発表会

日時：平成 22 年 12 月 5 日(日)

13:30～18:00(受付開始 13:00)

場所：群馬会館

参加費：500 円

参加方法：事前のお申込が必要です。(先着順)

内容：研究発表

教育講演

「認知症の BPSD への非薬物的アプローチ」

講師 和光病院院長 斉藤正彦先生

対象：保健・医療・介護職、ご家族など

詳細とお申込は、ホームページをご覧ください。

<http://happytown.orahoo.com/ninchi/>

第 3 回介護予防まつり in まえばし ～ピンシャン！

元気で明るいまちづくり～

日時：平成 22 年 12 月 5 日(日)

10 時～15 時

会場：前橋市総合福祉会館

前橋市日吉町 2-17-10

入場無料

内容：講演会(ラフターヨガ)&トークショー

介護予防実践コーナー・体力測定・

健康チェック・

新「ピンシャン！元気体操」初披露など。

対象：介護予防の関心がある方、どなたでも。

主催：前橋市・前橋地域リハビリテーション

広域支援センター

群馬大学医学部保健学科地域交流教育推進室

前橋市介護予防サポーターイベント実行委員会

お問合せ：

前橋市介護高齢課 (電話 027-898-6133)

または

前橋地域リハビリテーション広域支援センター

(電話 027-253-5165)

県支援センター事務局便り

(H22.4～H22.10)

4.20 ニュースレター 14 号発送

6.4 支援センター受託団体である群馬リハネットの第 1 回理事会にて、平成 22 年度事業計画を報告

6.26～27 平成 22 年全国地域リハビリテーション研修会(札幌市)

10.10 ニュースレター 15 号発行

編集デスク

山口晴保 清水尚子

山上徹也 角田祐子

発行

群馬県地域リハビリテーション支援センター

連絡先

群馬県地域リハビリテーション支援センター事務局

群馬大学医学部保健学科理学療法専攻内

Tel/Fax : 027-220-8966

E-mail: tsunoday@health.gunma-u.ac.jp



平成 22 年 6 月 4 日(金)19 時から群馬大学医学部保健学科 病院会議室において、群馬リハネット理事会が開催された。県からは、塚越日出夫健康福祉部介護高齢課長と、同課の清水裕美子氏が出席された。

まず、平成 21 年度県支援センター事業報告書・決算報告が酒井県支援センター長よりあった。

1)群馬県介護予防サポーター育成教材初級編・中級編の作成(CD-R)、各支援センターへの配布、HP 閲覧、2)2009 介護予防サポーター育成・活用事例の発行、3)平成 22 年 3 月 4 日に県庁で開催された広域支援センター連絡協議会、4)平成 21 年 11 月 10 日、平成 22 年 3 月 31 日発行ニュースレター 5)平成 22 年 1 月 23 日に群馬会館で開催された、内田信也講師、丸石正治講師による地域リハ関係者研究会、などについて報告し、承認された。

次に浅川事務局長より、群馬リハネット平成 21 年度事業報告・決算報告があり、これについて高玉会計監査担当理事より、事業の執行及び決算ともに適正であったと報告され承認された。

平成 22 年度県支援センター事業案・予算案について、酒井県支援センター長より説明があり、承認された。

次に群馬リハネット平成 22 年度事業案・予算案に関しては、浅川事務局長より説明があり、承認された。

その他として、山口副理事長より、高崎市における平成 22 年度介護予防実態調査分析支援事業についての説明があり、以下の意見交換が行われた。

・矢野理事長より、高崎市民以外の参加について、またウォーキング時間についての質疑があり、山口副理事長より、高崎市民のみで、30 分位のウォーキングをする。効果があれば、他の地域でも行うとのことであった。

・高玉理事より、前橋市は、さわやか健診を行い、ピンシャン元気体操に参加していただくグループと、健康なため何もしないグループに分けている。3ヶ月ほどのウォーキングでは、すぐもとに戻ってしまう

ので、半年～1年位継続していただければ効果が期待できるのではという意見があった。

・塚越課長より、介護予防の効果はみえにくいので、科学的に証明できるように支援していきたいという意見があった。

・廣崎理事より、脊損者も対象になるのかという質疑があり、山口副理事長より、今回は元気な方のみ対象としているとのことであった。

・深沢(祥)理事より、小さい地域も介護予防の取組を介護予防サポーターの力をかりてやって欲しいという意見があった。

・山口副理事長より、前橋市は、介護予防サポーターが主体で芳賀地区などの小さい地域でも筋トレグループを作り行っているという意見があった。

・丹下理事より、前橋市では、近所同士が声を掛け合って、筋トレグループを作っているという意見があった。

・深澤(昌)理事より、地域が小さすぎると、個人的な悪評が伝わりやすく、筋トレグループに参加しづらい雰囲気になる恐れがあるという意見があった。

次に、山口副理事長より、群馬県地域リハビリテーション推進指針(第二版)についての説明があり、以下の意見交換が行われた。

・中里理事より、P16(5)訪問看護ステーションの「在宅高齢者に」とあるが在宅高齢者のみではないので「在宅高齢者等に」としていただきたいと要望があった。

群馬リハネット事務局便り

(H22. 4～H22. 10)

平成 22 年 10 月現在会員等の状況

* 加入団体 32 団体

* 賛助会員 団体会員 2 団体

(株)孫の手・ぐんま(旧ハッピーラブハッピー)と、榛名荘病院より賛助会費をいただいております。

* 個人会員 1名

6. 4 平成 22 年第 1 回理事会

6.20 ぐんま認知症アカデミー第 5 回春の研修会(後援)

10.10 ニュースレター12号発行